

(1) トリニダード・トバゴ（10月の殺人事件数40件）

	日時	新聞記事の表題など	概要
殺人事件	21日掲載	ファイザバッドの死体は、行方不明になっていた OAS の外国人駐在員	検死の結果、トリニダード島南西部ファイザバッドの森林で発見された男性の遺体が、本年6月から行方不明になっていたブラジルの建設企業 OAS のブラジル人駐在員であることが判明。
犯罪データ統計	7日発表	ディロン氏、安全保障計画を策定：トリニダード島中部に警察及び軍の拠点	ディロン国家安全保障大臣は、本年はこれまでに350件の殺人が発生、このうち60件は薬物関連、49件は復讐を動機としたもの、23件はドメスティック・バイオレンス、29件は口論の末の殺人と発表。また、人身売買に関与した疑いで30人の身柄が拘束されるとともに、11人が被害に遭ったことが判明。テロとの戦いに関しては、在TT米国大使館と協力するとともに、トリニダード島中部に犯罪多発地域を特定、警察と軍が共同し、週7日24時間体制でパトロールする予定。
	9日新聞掲載	殺人事件で34人の女性が殺害	市民団体「TTのパワフルな女性」によれば、10月1日現在の2016年における殺人件数は342件、このうち34人の被害者が女性。被害者の多くは、16歳から35歳までのアフリカ系の男性(40.6%)で75.7%が銃器で殺害された。被害者の大半(37.4%)は、トリニダード島東部、北東部で発見された。
	9日新聞掲載	本年はこれまでに45件の誘拐事件が発生	警察筋によれば、これまでに45件の誘拐事件が発生したが、身代金目的の事件はゼロ。過去10年の間に薬物関連の誘拐事件が増加。
	9日発表	北部区域で100丁の銃器押収	警察は、本年はこれまでにトリニダード島北部区域で100丁の銃器と2,500個の弾丸を押収したと発表。
	17日発表	殺人事件検挙率の低さ	TT警察は、本年はこれまでに366件の殺人が発生（前年同期比6%）したが、解決したのは17%に留まると発表。
	18日発表	中部区域で殺人増加	TT警察は、トリニダード島中部区域における殺人率が前年同期比11%増であると発表。
	23日新聞掲載	ラベンティルにおける犯罪の減少	警察の統計によれば、ポート・オブ・スペイン地区は殺害された人数の多さでは全国で第4位。第1位は、アリマ及びセント・ジョセフを含む北部地区。ポート・オブ・スペイン地区で年初からこれまでに殺害された人の数は48人で、昨年同時期より25人減少。ただ、殺害された人の数が全国的に減少しているわけではないので、警察の活動が強化されたポート・オブ・スペイン地区では殺害された人の数が減っているが、警察力が強化されていない他の地区における殺人件数は増える結果になっていると分析されている。
	24日新聞掲載	犯罪学者：銃を使う暴力がTTにおける標準的な状態	銃を使った暴力、犯罪集団による事件がTTでは標準的な状態になっており、学校にも悪影響を及ぼしている。ある中等学校では、年初から10か月の間に3人の学生が射殺されている。学校により状況は異なるが、校内暴力や校内における犯罪行為、さらには銃器を用いた犯罪や犯罪集団を対象とした包括的な対策が必要。
	26日掲載	警官により殺害された人の数は92パーセント減少	警察から公表された数値によれば、警官に殺害されたと報告された人の数は過去5年間で最も多かった2014年の45人から2015年には19人に減少。2016年はこれまでに18人が警官により殺害。かかる事例が職権乱用に当たらないかを吟味・審査する仕組みが設けられているが、警察に対する国民の信頼を高めるために、日々の警官の行動の透明性を高めるための手段として、警官がカメラを着装するプロジェクトを本年9月1日から試験的に実施中。
その他	5日	元兵士、TT国防軍に恥をかかせる	警察は、元TT国防軍兵士2人を、トリニダード島南部のプリンセス・タウンの民家の放火未遂、銃器所持で逮捕。
	10日発表	法務長官、予算案審議で発言：6人のTT人をテロリストとして認定予定	アル＝ラウィ法務長官は、議会における予算案審議の中で、政府は、6人のTT人及び2人の外国人をテロリストとして認定する手続きを行っているとともに、イスラム国に参加しようとしてトルコ当局に身柄を拘束された9人の立場も検証中と発言。
	11日～13日	防衛大臣会合開幕	11-13日、ポート・オブ・スペインにおいて、第12回米州防衛大臣会合(CDMA: Defense Ministers Conference opens)開催。テーマは、「一層激しさを増す国際環境の中での西半球の防衛・治安における協力強化。
	18日発表	海事部が復活予定	国家安全保障省関係者は、銃・麻薬の流入を阻止するため、1980年代に解散したTT警察海事部を復活させる予定であると発言。警察の犯罪・問題分析班の統計によれば、2010年1月から本年9月末までに押収された麻薬は2億TTドル（約40億円）相当。トリニダード島北海岸のロス・イロスやラス・クエバス、南西部のオロポーチェ湿地帯、中部のカロニ湿地帯が麻薬の輸送地帯。
	23日	元兵士と銃弾入りの38口径レボルバー	元兵士を含む3人をトリニダード島北西部ココリテで銃所持により逮捕。
	26日掲載	高い犯罪率は事業開	西インド諸島大学(UWI)に勤務する経済学者は、高い犯罪率、特に殺人件数の多さが、起

		始を妨げている	業家に事業の開始を思いとどまらせる要因になっていることから、政府の取り組み強化を訴えている。たとえば、6時以降店を開けておくと強盗に遭うのではとの懸念があり、防犯装置の設置により事業コストが高くなるといった問題もある
	29日掲載	戦略サービス局「国家機密の販売」を証明	戦略サービス局(SSA)は、SSAに務める3人の職員が米国の法執行機関に国家機密を販売したという疑惑に関し調査を開始。一方、在TT米国大使館は本疑惑へのコメントを拒否。

(2) ガイアナ

	日時	新聞記事タイトル	概要
殺人事件	14日	ブラジル人が強盗に遭い、撃たれ死亡	ガイアナ北西部のカイトゥマ港で金鉱業で働くブラジル人の射殺死体が発見され、同人が所持していた金が奪われていたことから、警察は強盗の未殺害されたと断定。同人が滞在していたキャンプからは殺害に使用したとみられる銃が発見されたため、内部関係者による犯行とみられている。
強盗事件	23日	ガイアナにおける邦人被害強盗事件	出張で当地を訪問中であつた日本の会社員3名が、首都ジョージタウン内のスーパーでの買い物後、滞在先のホテルに徒歩で帰る途中、刃物を所持した3人組の強盗に脅され、所持していた現金、デジタルカメラ、スマートフォンなどをポケットから盗み取られた。
麻薬関連	2日、3日掲載	グレンジャー大統領、麻薬取引は「全犯罪の源」と発言	グレンジャー大統領、地元のテレビ番組で、麻薬取引が犯罪の温床であるとして、麻薬ネットワークの解体に注力すると発言。過去3か月の間に、2,200万ガイアナ・ドル相当の43キログラムの大麻が押収され、この関連で108人が起訴された。また、同時期には、9,200万ガイアナ・ドル相当の102キログラムのコカインが押収され、この関連で28人が起訴された。このほか、警察は、同時期に第10地域のリンデンにおいて、2万1,150キログラム相当の大麻畑を破壊した。
	11日	米国麻薬取締局拡大—米国、ジョージタウン班の人員を3倍に増員し、情報共有を強化	ホロウェイ駐ガイアナ米国大使は、この数か月の間に米国麻薬取締局(DEA)人員を3倍に増員し、ガイアナ政府との情報共有を強化したと発表。
その他	27日	警察がインターポールから重要な人身取引対策訓練を受ける	ガイアナの警察官数名が9月に国際刑事警察機構(インターポール)がTTで2回実施した人身取引対策に関する訓練コースに参加。9月下旬には、同訓練コースに参加した警察官が、人身取引対策に携わっている他の警察官、他省庁の係官、NGO関係者に、同訓練コースへの参加を通じて得た知識を広めることを目的とした研修コースが実施された。

(3) セントビンセント

	日時	新聞記事タイトル	概要
強盗未遂事件	11日	ノースリーワードにおけるヨット襲撃事件でフランス人男性負傷	セントビンセント島西中央部沖に停泊していたヨットに3人の男性が侵入し、うち1人がヨットに乗船していたフランス人船長をカトラスで襲撃。同船長は負傷。

(4) ドミニカ

	日時	新聞記事タイトル	概要
犯罪データ統計	9月30日	警察、ドミニカ国に密輸された武器について捜査	警察は、米国当局との協力の下、ウッドブリッジ港(首都近郊)に寄港していた船舶の中から12丁の銃、830個の弾丸を押収。